

収穫後から冬期にかけての ジャンボタニシ対策 !!

ここ最近、ジャンボタニシの発生が各地で増えてきています。そのすべての地域で、イネへの被害が、
でているとは限りませんが、発生場所が増えているのは確実です。そのため、これ以上増やさないた
めにも収穫後から冬期にかけての対策が必要になります。

ジャンボタニシとは？

ジャンボタニシ（和名：スクミリンゴガイ）は、名前の通り普通のタニシよりも貝が大きく、開口部
が広く、長い触覚があります。また、一番の特徴であるピンク色の卵塊を産みます。気温が高くなる
と活動を始め、イネが小さく柔らかい時ほど被害が多く、田植え後20日間程度イネへの食害が心配
されます。寒さに弱いため気温が低くなれば、活動を停止し土中で越冬します。貝殻1cm～2cm程度
の大きさのものが耐寒性が高く、生存率が高く翌年の発生に繋がります。

増やさない！広げない！



ジャンボタニシとタニシ（在来種）の違い 見分け方

ジャンボタニシ



開口部が
大きく
殻らせん部が
短い
(およそ7:3)

在来のマルタニシ



開口部と
殻らせん部
割合が
同じくらい。
(およそ5:5)

ジャンボタニシの 卵塊（ピンク色）



貝の密度低下対策

○貝と卵塊の処分

貝は見つけ次第、潰しましょう。卵塊は、産卵から日数が経過していない鮮やか
な色の間は、水中では呼吸できないので水没させて処分しましょう。灰白色に
なってきたら潰してください。水路に産みつけた卵塊の処理も重要です。

○トラクターを活用する砕貝

冬期にロータリーにより圃場を耕起し、貝を直接砕いたり、低温にさらして凍死
させます。移動速度を遅くしてロータリーの回転を上げると効果が高くなります。
また、大きな貝ほど殺貝率が高くなります。

○水田輪作体系の導入

乾燥に強いジャンボタニシでも、麦・大豆等の畑作物を栽培することにより、
貝の密度を著しく低下させることができます。

圃場内にピンク色の

卵塊があるか？が見分けるポイント！

貝や卵を潰す！

貝を砕く！

**5℃以下の
寒さにあてる！**

今回の対策と合わせて、春以降は農薬による防除が効果的です。